



Promoting peace building in Kirkuk through establishing a Peace Yard for children

「平和のひろば」を通じた平和醸成活動
(2015年9月－10月)

活動地：イラク共和国キルクーク県キルクーク市ラパリン地区



INSAN Iraqi Society for Relief & Development

(インサーン：救援と開発のためのイラク人協会)

<はじめに>

インサーンは、キルクーク市内のラパリン地区を含む6地区で2008年から活動している。

いずれも、民族や宗派の異なる多様なコミュニティが混在し、グループ間の緊張が顕著な地区である。

住民間の緊張を緩和し、共存に向けた動きを模索するために、グループ間の橋渡しをすると同時に、人々が未来にむけたビジョンを共有できるように、異なるグループの人々が一緒に参加するさまざまな活動を実施してきた。

2009年からは、JVCの支援により8歳から12歳の子どもたち40名を対象に、アートを通じた8週間の平和共生プログラムを開始、以後2012年まで5回のプログラムを実施した。最後の2回には、子どもたちの保護者向けの講座を盛り込み、地域の大人たちにも平和共生に向けた活動への理解を深めてもらった。

以後しばらくの間、資金不足や戦闘の影響によりプログラムを実施できなかったが、2015年、子どもたちのための「平和のひろば」を開設し、民族的・宗教的にさまざまな背景を持つ子どもたち（戦闘を避けて避難してきた国内避難民を含む）のための活動を実施している。

I. 実施状況 Implementation Progress

1. 参加者の選定

ラパリンなど6つの地区の計13校にアプローチし、「ソーシャルアート活動」への参加者を募った。

各校の管理者とミーティングを持ち、活動について説明するとともに、参加者についての詳細な情報を得るようにした。学校側は好意的に受け止め、プロジェクトについて保護者に知らせるなど協力してくれた。

また、インサーンのコミュニティ委員会の協力で、対象の地区の人々にもチラシやバナーなどでプロジェクトについて事前に告知した。

参加者内訳 (計55名)

女子 33名	男子 22名		
アラブ系 45名	クルド系 6名	トルコメン系 4名	
キルクーク出身 25名	他県出身(避難民) 30名		
5-7歳 17名	8-10歳 22名	11-14歳 16名	
			計 55名

2. 送迎バス

治安が悪いため子どもたちの安全を考慮し、送迎のバス便を用意した。

定員25人のバス1台で6地区を回り、55名の参加者を2回に分けて送迎した。

3. プログラムの実施

インサーンの事務所がある建物内に開設した「平和のひろば」にて、12回にわたるアートセッションを実施した。セッションは週に3回実施、1回あたりの時間は3時間である(2時間のアートセッションと、1時間の精神科医による精神的ケア)。

セッションは、平和人権専門家やアートソーシャルワーカーであるインサーンのスタッフらが運営し、インサーンのボランティアがこれをサポートした。精神的ケアは、精神科医が担当した。

主な内容は次ページのとおり。

9/1	①人権（子どもの権利）に関するアニメ映画を通じて、人権についての基礎的概念を得た。 ②参加者のグループづくり（グループ分け）。
9/2	①平和共存をテーマにした読み聞かせ。 ②郷土愛に関する寸劇を子どもたちが上演。
9/3	①地域の団結と平和共存に関するマンガを読んで、話し合い。 ②平和や人権についてのイメージを、どのように絵で表現するかというビデオを観賞。
9/8	①「子どもの権利」を理解するための文字ゲーム。 ②寛容と平和共存に関する歌とアニメおよび話し合い。 ③「自分を信じ、大切にすること」をテーマにしたビデオ観賞のあと、精神科医の話。
9/9	①色画用紙で平和をイメージした切り紙を製作、それについて話し合い。 ②精神科医らによる「怖いもの」や、いま抱えている問題の絵を描かせる療法。 （多くの子が、自分の家を追われている状況について描き、避難の際に目にしたテロリストの絵を描く子もいた。）
9/10	①風船に子どもたちの夢や希望を書き、空に飛ばした。 ②精神科医が、子どもたちが向き合う困難や心理的な問題について扱うアニメを見せ、緊張を和らげる方法や、今後に向けてどのように気持ちを持つかという話をした。ソーシャルワーカーらが、子どもたちの苦痛を和らげるように導き、一人一人の解決策を可能な範囲で提案した。
9/15	①紛争解決と平和共存についてのゲーム。 他人を思いやること、ひとり占めをしないということを学んだ。 ②自己肯定と自立、自己決定に関するビデオ観賞。 ③「文化・職業・宗教などの違いで他人を見下してはならない」という内容のビデオを観賞後、子どもたちが感じたことを絵に描き、精神科医がそれをもとに地域の団結や平和共存についての話し合いを展開。 ④信頼関係を作るための5つの要素：否定的な見方を捨てる、隠された能力を見つける、ためらいを捨てる、他人の中傷に耳を貸さない、意思決定能力。
9/16	「平和の劇と歌」：アートの専門家を迎えてのダンスと合唱、ミュージカルのレッスン。 子どもたちは、これまでのつらい体験をひととき忘れて楽しんだ。
9/17	①「子どもたちの夢と恐怖」：心の中にある言葉やイメージを一人一人が紙に書き/描き、それについてみんなの前で説明をした。ほぼ全員が暴力等とは無縁のポジティブなものを書いた/描いたが、ある女の子は戦車と破壊された街を描いては何度も紙を破って描き直していた。結局最後には、花いっぱい広い庭で友だちと遊ぶ自分を描いた。 ②前日に習った歌の練習。
9/20	紛争解決をテーマにしたロールプレイ（寸劇）。子どもたちは、寸劇を通して対話することの重要性を学ぶとともに、演劇・ステージ・シナリオ・登場人物・監督・観客など演劇に関する基礎知識を得た。
9/22	①「平和の鳩」づくり：グループごとに段ボールで鳩を作り、名前をつけた。 （「希望の鳩」「未来の鳩」「寛容な鳩」など） ②「問題解決のためのテクニック」：子どもたちが家庭などで見聞きしたことのあるトラブルに、どのように対応したかを聞いた。民族にまつわる問題がいくつか出され、どのように対応するのがよいかを改めて子どもたちと話し合い、問題に必要な以上に関わらないようにすることの大切さを説明。また、避難民の人々に関してどのように周りの大人たちに働きかけ、避難民を支援できるかについても説明した。
9/26	①「日本の日」：日本の地図・国旗・写真を見せて、日本の位置、自然、教育制度、食、住居、文化、主なスポーツなどを紹介した。 ②修了式典で発表する劇の練習

* 毎回、ソーシャルワーカーが子どもたちの様子や反応を観察し、適切に対応した。

* 精神科医もセッションに参加、子どもたちの様子を観察し、適切な処置をとった。

* プログラムの半ば過ぎから、子どもたちのポジティブな言動への変化が見られるようになった。

* 参加希望者が定員を上回り、参加者のきょうだいはビジターとしていくつかのセッションに参加してもらうことにし、あとは次回開催時に回ってもらうこととした。

* 毎回、セッションの間にジュースとお菓子を出した。

* 避難民の子どもたちには、衣類を支給した。



初日 (9/1) の様子



3日目 (9/3) : 平和や人権のイメージを絵で表現



5日目 (9/9) : 平和をイメージした切り紙



「怖いもの」や抱えている問題について



6日目 (9/10) : 夢や希望を風船にかき、飛ばした



7日目 (9/15) : 平和共存についての絵を描いた



8日目 (9/16) : ミュージカルのレッスン



9日目 (9/17) : 「子どもたちの夢と恐怖」



9/20 (10日目) : 紛争解決をテーマにしたロールプレイ (寸劇)



9/22 (11 日目) : 「問題解決のためのテクニック」



9/26 (最終日) : 修了式典で発表する劇の練習

修了式典 **Final Ceremony**

12 回にわたる平和構築や紛争防止のアクティビティの終了後、修了式典を実施した。

コミュニティ委員会のメンバーや地域の人々、学校関係者、地元当局者、記者らを招待し、子どもたちおよびその保護者を含めて 100 名以上が出席した。

まず、インサーンのプロジェクト責任者がインサーンについてと、子どもたちのアートセッションを通じて平和に向けた機運を醸成するという「平和のひろば」について説明した。彼女はまた、子どもたちがここでどんなことを学んだか、そしてこのキルクークという多様な人びとが住む街で今後果たす役割についても伝えた。

また、すべてのコミュニティが困窮している人々、特に避難民の人々を支援すべきだということも述べ、子どもたちだけでなく、いま式典に参加している人々どうしが互いに連携し、協力していくように促した。

次に、子どもたちが平和のミュージカルを上演し、他にも歌や劇、ゲームなど 15 ものアクティビティがあり、会場は楽しい雰囲気にも包まれた。カラーペンとスケッチブックが子どもたちに贈られ、参加者にはジュースとお菓子がふるまわれた。

最後に、インサーンの理事とプロジェクト責任者が、この活動のための尽力に謝意を表し、保護者がそれぞれ謝意を述べた。



保護者との懇談会: Parents meetings

参加者の保護者との懇談会を週1回、4回にわたり実施した。

子どもたちの言動や様子について話をし、キルクークの街に平和をつくり出すために、保護者らがどのように参加し、役割を果たすべきかについても話をした。

特に、平和をつくるためのプロセスと社会の役割、中でもキルクークの地元の人々が避難民の人々をあたたかく迎えることの重要性について強調した。

保護者らは、この活動に参加することに誇りと意義を感じており、非常に好意的・協力的であった。今後も「平和のひろば」の活動を続けるとともに、他にも社会のためになる活動を実施するよう要望が上がった。「平和のひろば」で実施した、精神的な問題を抱える子どもたち（特に避難民の子どもたち）に対するケアも評価を受けた。

II. モニタリングと評価: Monitoring and Evaluation

現地調査・個別聞き取り・「セオリーオブチェンジ（社会変革理論）」・口頭での評価などさまざまな方法を用いて、地域社会に対するプロジェクトの効果および社会の変容を確認した。

上記により得られた情報を総合すると、対象地区の複数のコミュニティが、子どもたち対象のアート活動を通じた平和づくりという「平和のひろば」のコンセプトに高い関心を持った。

人々は、子どもたちこそが将来において平和共存をリードする新世代であると捉えている。

1. 平和共存のために子どもたちが果たす役割: Role of Students to enhance peace building

子どもたちは、セッションの中で「平和の文化」を育み、また、セッションで学んだ、問題が起きたときの対応のしかたや地域社会で対話することについて家庭や学校で他の人々にも伝えることで、多大な数の人々に影響を与えることができる。

2. 「家庭の主婦」が果たす役割: Role of women 'Housewives'

家庭の主婦である女性たちは、子どもたちを平和の文化の中で育てることを通して、重大な役割を担う。母親が、どのように子どもたちを育てるかによって、社会の中で平和づくりに向けた活動を発展させることができる。

対象地区において、教育を受けた女性の中にはコミュニティ内で自分の意見を表明できる人もいるが、ほとんどの女性（特に避難民の女性たち）はあまり教育を受けておらず、そのような機会がない。子どもたちに関する課題を話し合う場である学校での懇談会にも、ただ出席するだけである。もし彼女たちが、地域内の差別や対立という課題を提示することができれば、解決に向けた話し合いを始めることができる。

3. 地域社会および市民グループが果たす役割 : Role of community including Civil Society Organization

「平和のひろば」の修了式典に出席した地域の人々は、連絡先を交換し、ミーティングを持つなど、交流が促進されている。インサーンは、地域の人々および市民グループとの連絡を続け、3割の市民グループや個人が互いに連絡を取り合い、避難民など困窮した人々の支援に関心を持っていることを確認した。

インサーンは、平和づくりに向けた活動に関する地域社会の変化を、以下の観点から確認した。

- 参加者たちの交流が続いているか。
- 互いの家庭を訪問し、ミーティングで課題が挙がっているか。
- 地域社会の問題解決のための動きが起きているか。
- 地域社会の中の対立や平和に関する問題解決のために、当局や担当者を訪問しているか。

結果と成果 **Impact and Outcomes**

セッションを通じて、平和・受容・寛容などの概念を子どもたちに伝え、多様性や互いの違いを重んじ、協調と結束を目指すということについて教えることができた。

セッションは、一方的に子どもたちに教えるのではなく、子どもたちとの対話を非常に重視するものであった。子どもたちが、言葉や絵や演劇を通して自分自身を表現する場を用意した。

子どもたちは、自分の考えや意見を発表するセッションに、特に高い関心を持って参加していた。特に、自分が経験した問題について話したり、地域社会の中にある差異や課題と解決法について話し合ったりするのを好んだ。

「平和のひろば」を通じ、地域社会の中で、キルクークにおける平和づくりに参加することへの関心が高まった。インサーンは、ネットワークを通じて若い世代（子どもたち）と共にどのように平和をつくるかということについての情報収集を始めている。

III. 今後に向けて **Recommendations and lessons learnt**

評価の過程で実施した現地訪問と個別聞き取りにより、「平和のひろば」の活動に対する地域社会の意見を収集することができた。

「平和のひろば」は、参加を希望するすべての子どもたちに自由に開かれた場所とするべきである。今回実施した精神的なケアの他に、学校の教科も取り入れるべきであろう。

また、地域社会にさらなる影響を与えるために「平和のひろば」の長期間にわたる実施が必要である。

さらに、すべての地区で「平和のひろば」を実施し、すべてのコミュニティが平和共存と地域社会の団結に向けた社会活動に参加することができるようにすべきである。